

ハイデルベルク信仰問答より

問 37 「苦しみをうけ」という言葉によって、あなたは何を理解しますか。

答え それは地上でのご生涯を貫いて、とりわけその終りに、全人類の罪に対する神の怒りを身と魂に負われた（イザヤ 53:12、Ⅰペテロ 2:24）、ということであります。それは、ただ一つの罪の償いの犠牲として捧げることにより、彼が永遠の破滅から私たちの身と魂を救うためであり、私たちが神の恵みと義と永遠の生命を得るためであります（ローマ 3:24-25）。

今日から主イエスの「苦しみ」をテーマとして学んでまいります。使徒信条で告白されている「ポンテオ・ピラトの下に苦しみを受け」の部分掘り下げた問答になっていますが、本来は問 37～39 をひとまとめに読み上げるべきところです。

問 38 なぜ、彼は裁判官ポンテオ・ピラトの下に苦しみを受けたのですか。

答え それは、罪なくして彼が地上の裁判官によって罪ありとされ（ヨハネ 19:13-16）、それによって、最も厳しいかたちで、私たちに下される神の裁きから、私たちを解放するためあります（イザヤ 53:4-5、ローマ 5:6）。

問 39 主が十字架につけられたことは、ほかの死にかたをされたことにより、もっと大きな意味があるのでしょうか。

答え その通りです。なぜなら、そのことによって、私は、神が私の上に下す呪いを、ご自身に引き受けてくださったことを確信するのです。それは、十字架の死が神によって呪われたからであります（ガラテヤ 3:13）。

今日扱う問 37 では、主イエスの受難が示している事柄（それが私たちとどう関係しているか）について教えられています。「受難」と聞いて多くの人が思い浮かべるのは、おそらくゲッセマネの園での祈りから不当な裁判や集団リンチを経て十字架に至るまでの時間でしょう。ところが、この問答の答えによると、主の受難とはその生涯全体を指すと言われているのです（**地上でのご生涯を貫いて**）。これは、主イエスの受肉の目的そのものが「苦しむこと」であったという意味でしょう。実際、主イエスの誕生の時から既に十字架を暗示する出来事は起き始めています。救い主の誕生でありながらこの世は彼を歓迎しなかったこと（「**この方はご自分のくにに來られたのに、ご自分の民は受け入れなかった**」ヨハネ 1:11）、ヘロデ大王の魔の手を逃れて直ちにエジプトへ逃れたことなど（マタイ 2:16-18）、平安なき人生の始まりでした。そして、公生涯においては常にユダヤ教当局の監視下に置かれ、幾度もイエス暗殺計画が企てられました。これらすべては、十字架へと一段一段登って行く階段であったとすることができます。しかし、「**その終りに**」と敢えて強調されているように、やはり十字架の出来事そのものには究極的な意味がありました。それは主イエスが神へのいけにえになられたということです。

「全人類の罪に対する神の怒りを身と魂に負われた」という表現があります。主イエスの死は表面的には「ローマ帝国への反逆の^{かど}廉で捕らえられた一人のユダヤ人指導者の処刑」として片づけられてしまう危険性がありましたが、その出来事の背後に隠された意味が聖霊によって明らかにされていきました。ヨハネ福音書の著者は、その福音書の冒頭からイエスを「神の小羊」と呼び（1:29, 36）、主の十字架のタイミングを「過越の小羊が屠られる時間」と重ね合わせて表しています。これは著者の深い神学的意図による書き方ですが、それを通して聖書読者は旧約聖書に繰り返し出てきた「犠牲の動物」が、主イエスの犠牲の死を予表するものであったことを理解するに至ったのです。「贖いの日」に大祭司が至聖所に入って2匹の雄ヤギを民の罪のために献げたように（レビ 23:27, 28、25:9）、主イエスは永遠の大祭司として完全な犠牲としてのご自身を全人類のためにささげました。主イエスは神の怒りの全体を負い尽くさなければなりませんでした。そして、その役目を果たせるのは自分だけであることを自覚しておられました。

「身と魂に」と慎重に言われている点にも注目しましょう。これは「全存在」を表すことばですが、答えの後半にある「永遠の破滅から私たちの身と魂を救うため」と共鳴しています。本来、神の怒りは私たち自身がこの全存在をもって受け止めていかなくてはならないものでした。しかし、その負いきれない神の怒りを主イエスは身代わりに担ってくださったのです。それが、主イエスが人となられた目的でした。主は人類の代表として一身に（その魂までも）神の怒りを引き受けてくださったのです。だから、主が味わう苦しみも中途半端なものではなく、自ら苦しみ尽くす道を選ばれました。このことは、十字架上で麻酔薬となるぶどう酒を^{しりぞ}斥けたことにも表されているでしょう（マタイ 27:34）。

この「受難」の意味を理解し信じる者は価なしに義とされます（ローマ 3:24）。主の十字架の効力は、私たちのすべての罪を覆って余りあるものです。主イエスは私たちを「永遠の破滅から救う」ため、そして「神の恵みと義と永遠の生命」を与えるために、主体的に受難の道を歩み抜いてくださいました。